

校長 だ よ り

平成23年2月1日(火)

沖縄県立読谷高等学校 校長 與那覇 健勇

～学力向上研究指定校最終発表にあたって～

十年一昔(ひとむかし)と言われる。本日の学力向上対策研究指定校の最終発表にあたり、本校の進路面での歩みを振り返ってみたい。

今から10年前、平成13年4月、私は、本校進路指導部主任を仰せつかった。最初に心がけたことは、少しでも学校のイメージを良くするために、毎日ネクタイを締めて来校者に接することであった。その日から三年間、ネクタイを締めない日はなかった。授業と来校者への対応。どちらも手は抜けない。特に主任としての1年目は過去の教師歴9年間の仕事量と匹敵するほどの意気込みとプレッシャーの中で仕事に向かった記憶がある。中でも10年経験者研修を受講する中での主任業務は厳しく、夏休み期間中は、読谷の里での研修が8:30に始まるため、7:30に講座を設定して凌いだ。

生徒の頑張りと多くの教師の熱血指導、保護者のサポート等によりその年の国・公立の現役合格者が11名と初の二桁となり、退職のはなむけになったと富川貞良校長は大変な喜びようであった。

そして、仲村守和校長が平成14年度に着任なさり、類稀なるリーダーシップで、読谷高校は表舞台に躍り出る。「読高生はダイヤモンドの原石である」「読高勝利のトリプルA」等の明言を残された。今から思えばさすが教育長になる人は違った。同窓会から校長裁量予算を献上させ、福岡県立筑前高等学校へ3年間本校の教師を研修に行かせたことをはじめ、ボールペン使い切り運動を内外でアピールする等、現在の読谷高校躍進の礎を築かれた。読谷村立読谷高校と言わしめるまでに地域の絶大な支持を得るようになった。

平成17年から19年は本永清校長、20年から21年は有銘清校長両校長の下で国・公立20名を突破する学校になった。

さて、本県は平成2年には県立高校現役生の国公立大学合格者数は280名であったが、20年後の平成22年には1109名になり、この20年間でその数は4倍になっている事からも判るとおり、高校生の学力は確実に向上している。本校においては平成2年の国公立合格者は2名、平成22年度は20名なんと10倍である。いかにしてこれらの数字が出せたか本日の発表でその一部が明らかになる。

「やる気から波紋する学習意欲の向上」(進路のしおり活用による進路指導を中心とした学力向上)のテーマのもと、県立読谷高等学校における学力向上研究指定校の最終発表に期待していただきたい。そして、本校の更なる飛躍・発展のための、ご指導・ご提言を賜りたくお願いしたい。